

「社会生活に生きる力を育む指導の充実」

～社会での生活を意識した共有した取り組み～

○ はじめに

これまでの研究成果を活かし、学部の課題などや理想の将来像を考え、全校の研究テーマ「社会生活に生きる力を育む指導の充実」に沿った、高等部の研究テーマを「社会での生活を意識した共有した取り組み」と、設定した。(図1)

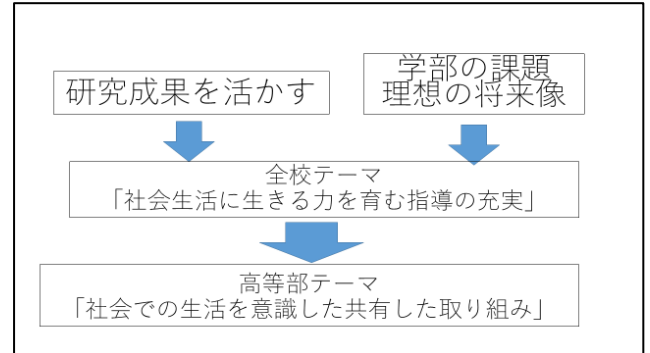


図1 テーマ設定の理由

○ 研究計画

(1) 研究目的

これまでの研究成果を活かして、「主体的・対話的、深い学びの視点」でさらに、授業などの学習活動を充実すること。

(2) 研究仮説

生徒と授業の評価を適切に行い、目標や課題が実態に応じた適切に設定し、主体的・対話的で深い学び視点で授業を行うことができれば、活動や学習での充実感を味わい、社会生活に生きる力をより高めることができる。(図2)

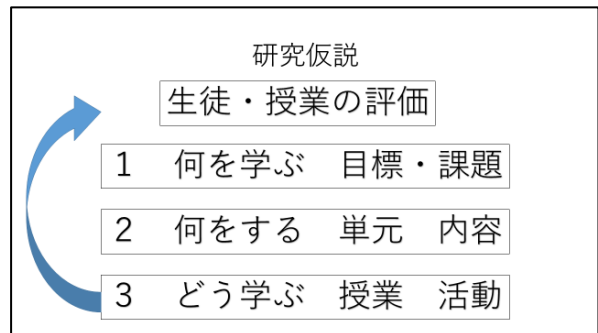


図2 研究仮説

(3) 研究方法

1 作業学習で大切にすること(かしのきプログラムや年間目標)の共有

2 研究で取り組む内容の選定

① 作業日誌の形式の共有化、記入の仕方の共有(目標、感想や反省で書く内容のポイントの共有)

② 取り組む態度(返事や挨拶、言葉遣い、報告の仕方) ←職業と連携して

③ 外部からの評価(販売の充実)

3 選定した内容を共有化する。(具体的なやり方を作り教員全体で確認する)

4 共有化した内容の実施。各授業作業班で実施する。

5 評価や成果を共有化。(他の工夫や改善を参考にする。年間指導計画の活用)

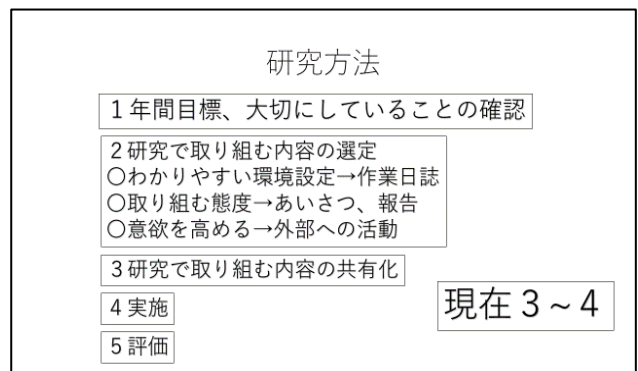


図3 研究方法

○ 実践報告

(1) 作業学習で大切にすること(かしのきプログラムや年間目標)の共有

① 分かりやすくする環境設定、役割の設定→主体性の発揮

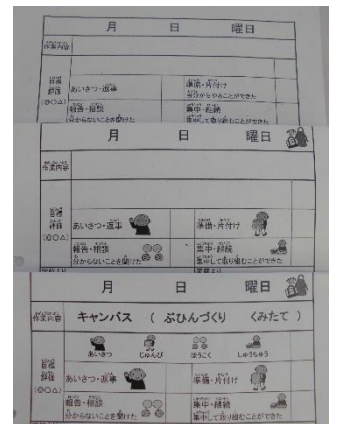
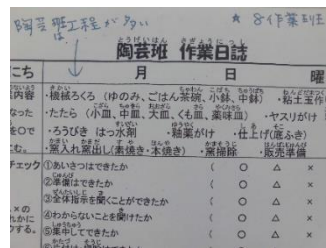
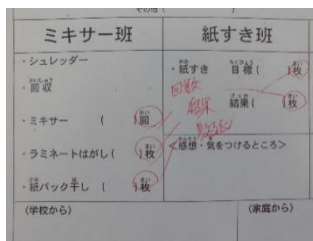
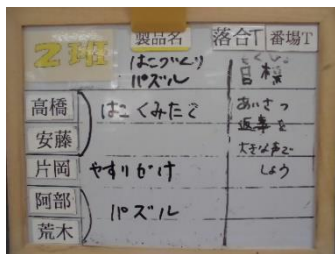
- ② 社会生活に必要な生活習慣や態度を身につける→挨拶、報告など
- ③ 周りからの評価を受けて、労働への意欲を高めていく。→外部への販売など

(2) 研究で取り組む内容の選定

- ① 分かりやすくする環境設定→作業日誌の充実（目標設定）
- ② あいさつ、報告→学校生活全体での取り組み
- ③ 外部への販売への参加→上尾元気アップフェスタへの参加

(3) 共有化した内容の実施

- ① 作業日誌の充実については、各作業班の工夫しているところを共有し、各班の課題を改善していく。また、多くの班で目標設定を改善しようとしている点が挙げられた。
- ② あいさつや報告については、職業の授業と連携して、将来の社会生活に生きる、挨拶の大切さや仕方について共有し、学校生活のいろいろな場面で取り組んでいく。
- ③ 外部への販売は社会情勢の影響で今年度は実施を見送り、社会情勢の改善を待って、実施できるように準備しておく。



作業内容や目標を始まる前に掲示。生徒はこれを見て日誌の記入や道具の準備を行う。

作業内容に量を表示することで、頑張ったことを分かりやすく伝え、自己評価に活かす。

作業内容を書きおくことで、分かりやすく伝え、見通しを持ちやすくしている。

イラストなどを活用し、生徒の実態に合わせて3種類の日誌を用意している。

写真1 見通しを持ちやすくする各班の工夫

○ まとめ

「作業日誌を使つての目標設定と評価の重要性」

作業班の特性に合わせた、工夫している点に着目して、各班で改善点を話し合った。各班の改善しようとしている点は、目標設定に関係するものが多く、また、実態に応じてより分かりやすくしようとするものであった。

今年度話し合った改善点は、来年度から行われ、改善に対する取り組みの評価は、生徒の評価と授業の評価両面から行う予定である。

「挨拶指導から見えた学習活動全体で取り組む重要性」

将来の社会生活に必要な、生活習慣や態度を身につけていく中に、挨拶指導の重要性を確認し、そのために、職業の授業と連携をし、学部全体で取り組んでいく。

「外部評価の重要性」

来年度の元気アップフェスタへ参加する予定である。社会情勢で、このような活動が難しい状況であるが、生徒が直接外部の方と接し、評価を得られる活動を大切にしていきたい。